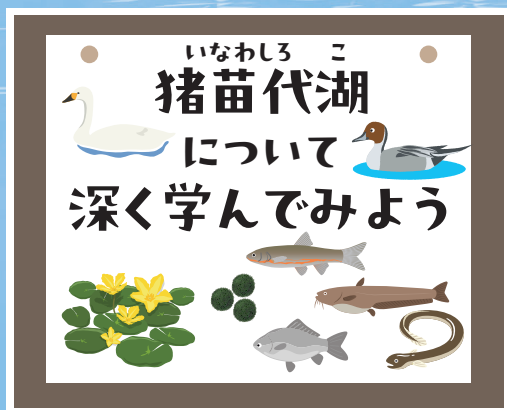
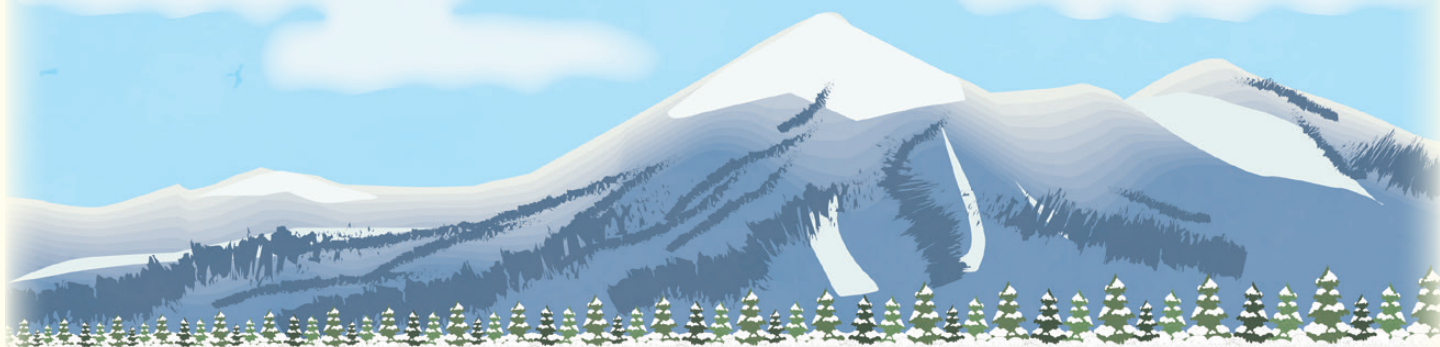


いなわしろ こ

猪苗代湖と ラムサール条約

じょう やく



2025年7月 (祝) ラムサール条約湿地登録!

じょうやく しっち



ラムサール条約とは

1971年2月にイランの「ラムサール」という都市で開かれた国際会議で決められた、
湿地を守るための約束事です。正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関
する条約」といいますが、一般的には「ラムサール条約」と呼ばれています。



出典：パンフレット「ラムサール条約」(環境省)を加工して作成
<https://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/pamph01/index.html>

ラムサール条約の 3つの柱



保全・再生

水鳥のすみかとしてだけではなく、私たちの暮らしを支える大事な生態系(※)として、湿地を守り、元のすがたに戻していくことを呼びかけています。

※生態系とは、その場所にくらす生き物と環境がお互いに関わり合いながら存在している一つのまとまりのこと

賢明な利用 (ワイズユース)

湿地の生態系を守りながら、その恵みを上手に使っていくことを呼びかけています。たとえば、自然のバランスをくずさないようにしながら、湿地でとれる魚や水を利用していくことです。

交流・学習

湿地を守っていくために、世界の人たちと交流したり、学び合ったり、湿地の大切さを広めたりすること(これをCEPAといいます)を大切にしています。

いなわしろ こ 猪苗代湖のラムサール条約湿地登録

2025年7月「猪苗代湖」が ラムサール条約湿地に登録

ラムサール条約に登録されるためには、国際的
に大切な湿地かどうかを示す9つの基準のうちの
いずれかと、日本で決めている条件を満たすことが
必要です。福島県の「猪苗代湖」は、9つのうち5つ
の基準を満たしていて、日本の条件も満たしている
ので、ラムサール条約の湿地に登録されました。

いなわしろ こ 猪苗代湖が 満たしている国際基準

登録のための9つの国際基準

- 基準1：めずらしい生態系であったり、その場所にしかない生態系がある湿地
- 基準2：絶滅するおそれがある生き物（絶滅危惧種）を支えている湿地
- 基準3：生き物たちの豊かな個性とつながりを守るために大切な湿地
- 基準4：生き物がたまごを産み育てたり、成長するためなどに必要な湿地
- 基準5：定期的に2万羽以上の水鳥が集まる湿地
- 基準6：水鳥の中の1つの種類の、全体数の1%以上が生息している湿地
- 基準7：その場所にしかない魚が生息していて、生物多様性を支えている湿地
- 基準8：魚がえさを食べたり、たまごを産んだり、子どもが育つために大切な湿地
- 基準9：鳥以外の動物の、1つの種類の全体数の1%以上が生息している湿地

国際基準1

めずらしい生態系であったり、その場所にしかない生態系がある湿地

強い酸性の川の水が流れてくることで、水が自然にきれいになるしくみがあり（5ページに説明あり）、湖面積が広いにもかかわらず、水がきれいに保たれています。

国際基準2

絶滅するおそれがある生き物（絶滅危惧種）を支えている湿地

世界的に絶滅するおそれがある生き物（IUCN レッドリスト）に選ばれている、オニノヤガラ、カシラダカ、ホシハジロなどが生息しています。

国際基準3

生き物たちの豊かな個性とつながりを守るために大切な湿地

たとえば、「ヒロハススキゴケ」というコケの仲間は、「猪苗代湖ミズスギゴケ群落」として国の天然記念物に指定されており、ほかにもたくさんの生き物が生息しています。

国際基準4

生き物がたまごを産み育てたり、成長するためなどに必要な湿地

冬になると湖の一部が凍るため、大きな波が起こりにくくなります。そのため、アサザなどの水の中に生える植物が育つ、穏やかな環境を作り出しています。

国際基準6

水鳥の中の1つの種類の、全体数の1%以上が生息している湿地

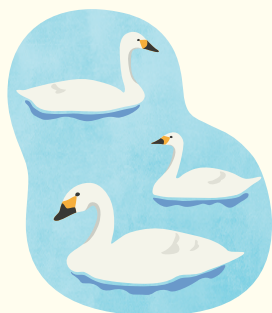
2020年から2024年の5年間で、猪苗代湖にやってきたコハクチョウの数は、全体数の1%である約450羽を大きく上回っています。

登録されたことによってどうなる？

ラムサール条約湿地に登録されたことで、どのようなメリットがある？

猪苗代湖がラムサール条約に登録されたことで、国際的に「大切な湿地」として認められました。すると――

- ・学校の授業や環境学習に、もっと利用されることが期待できます
- ・みんなで守る活動が活発になり、将来まで大切に守られることが期待できます
- ・賢明な利用が進み、観光客が増えたり、地元の特産物がブランド化することなども期待できます



いなわしろ こ 猪苗代湖に生息している動植物



猪苗代湖の水辺には、アサザという植物がたくさん育っています。アサザは水をきれいにする力や、波をやわらげる力を持っています。

猪苗代湖は「白鳥の飛来地」として有名ですが、ほかにもカワウ、オオヨシキリ、オナガガモなど、1年中いろいろな種類の鳥を見ることができます。

水辺の植物(ヨシ、マコモ、アサザなど)がたくさん生えている場所では、ウナギやナマズも安心してくらすことができます。

猪苗代湖には、ウグイやコイ、ギンブナなど、合わせて30種類以上の魚がすんでいます。

多様な生態系

猪苗代湖は、場所によって水の深さが違うので、そこにくらす生き物や植物も違います。水が浅い場所にはエゾミソハギやコウホネといった植物のほかに、日本でも最大級のアサザの群れが広がっています。猪苗代湖のアサザは、花の「おしべ」と「めしべ」の長さがほぼ同じなので、受粉がしやすく、たくさんのタネができます。

また、湖の周りには、鳥やメダカ、ゲンゴロウなどの小さな生き物もくらしています。なんと70種類もの鳥を見ることができるといわれています。その中には、絶滅のおそれがある鳥もいます。

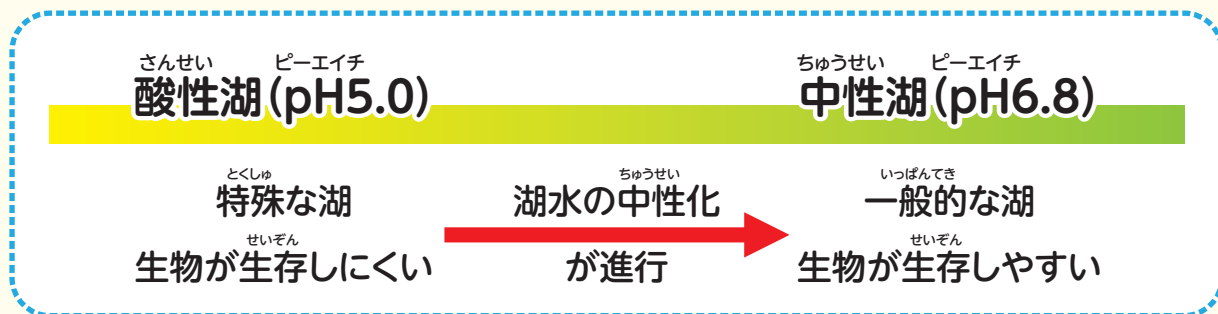
一方で近年は、人の手によって外国などから入ってきたブラックバスやウチダザリガニなどの外来生物の増加が湖に元々いた生物のくらしを脅かしており、多様な生態系を守る上で大きな課題となっています。

いなわしろ こ みずかんきょう 猪苗代湖の水環境

さんせい いなわしろ こ ちゅうせい こ 酸性だった猪苗代湖が「中性湖」に

以前の猪苗代湖は、pH5.0ほどの「酸性」の湖でした。これは、上流にある鉱山跡や「沼尻温泉」、「中ノ沢温泉」から出る強い酸性の水が、長瀬川から湖に流れこんでいたからです。

川から入ってきた酸性の水に含まれる鉄やアルミニウムなどの金属は、よごれやリンなどの成分と結びつき、湖の底に自然にしずむことで、透明度の高いきれいな水を生みだします。



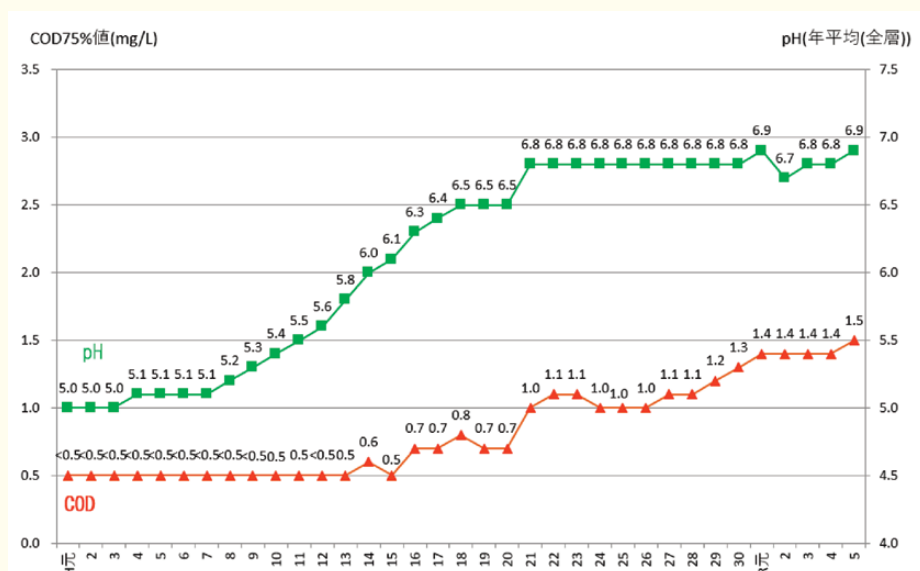
しかし、近年猪苗代湖では「中性化」が進んでいます。これは、水の性質が「酸性」から「中性」に近づいているということです。それには、川の上流にある鉱山跡から出る水の量の変化など、いくつかの理由があります。

中性になると、生き物がすみやすくなる一方で、湖が持っていた「自然に水をきれいにするしくみ」がうまく働かなくなるという問題も出てきました。

現在、水のよごれの目安となる「COD」という値が増えていて、水質の悪化が心配されています。これは、湖の水が中性になったことで生き物の動きが活発になり、植物プランクトンや水の中に生える植物が増えたことが原因のひとつと考えられています。

すいしつ じょうきょう 水質の状況

猪苗代湖(湖心)における水質の推移



シーオーディー COD(化学的酸素要求量)

CODは、水がどれくらいよごれているかを測るための値です。湖や海などの水の中の「有機物」の量を調べるときによく使われます。

ピーエイチ pH(水素イオン濃度指数)

pHは、水が「酸性」なのか「アルカリ性」なのか、またはその中間である「中性」なのかを表す値です。pHは0から14の値で示され、値が低いと「酸性」、高いと「アルカリ性」、7が「中性」です。

ラムサール条約の3つの柱に基づく取り組み

ほぜん さいせい 保全・再生

近年、猪苗代湖では水質の悪化が心配されていますが、対策として、湖のまわりの市や町では、下水道や浄化槽など、よごれた水をきれいにする施設の整備を進めています。

また、住民やボランティア、会社、役所などがいっしょになって、湖岸のそうじをしたり、岸に流れついた水草を回収したり、水のごとの原因になるヨシやヒシという植物を刈り取ったりしています。



猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト入賞作品

けんめい 賢明な利用 (ワイズユース)

猪苗代湖の水は、昔から水力発電に使われてきました。また、田んぼや畑の水、生活で使う水としても大切に使われてきました。

湖のよごれを防ぐために刈り取った水草も、ムダにせず使われています。例えば、ヨシはお祭りや行事の道具、紙の材料に使われ、ヒシはお茶の材料として使われています。

また、湖では水あそびやボート、湖の周りではキャンプなどのアウトドアを楽しめるため、県内有数の観光地となっています。



猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト入賞作品

交流・学習

猪苗代湖のまわりにある学校では、水環境を守るための学習に取り組んでいます。日本の中でもとても大きいアサザの群れを守るために、アサザを育てたり、別の場所に植えかえたりしています。

また、水のきれいさや水の中にいる生き物を調べたり、岸のそうじや、ウチダザリガニのような外から入ってきた生き物を駆除する活動もしています。

そして毎年「猪苗代湖子ども交流会」というイベントを開き、子どもたちがそれぞれの活動の成果を発表しています。こうした活動をとおして、自然を大切にする気持ちが育っています。



日本のラムサール条約登録湿地

日本最初の登録湿地は、1980年の釧路湿原です。
猪苗代湖が登録されたことで、日本のラムサール条約湿地は54ヶ所になりました。



ラムサール条約の登録湿地になった猪苗代湖に誇りを持ち、この豊かで恵まれた自然環境を守っていかねばなりません。私たち一人一人に何ができるかを考え、実行することで、世界に誇れる私たちの猪苗代湖を未来に引き継ぎましょう。

国内のラムサール条約湿地
● 登録湿地数／54ヶ所
● 総面積／166,134ha

(2025年11月現在)

いなわしろ こ 猪苗代湖を守っていくためには…？

ラムサール条約湿地に登録された猪苗代湖は、私たちの大切なたからものです。
このすばらしい自然を未来まで守っていくために、私たち一人一人が「自分にできることは何か？」を考えて、行動していくことが大切です。

猪苗代湖を世界に誇れる場所として、次の世代に伝えていきましょう。

活動リスト

「日頃から心がけていること」「やったことがあること」
「やってみたいと思っていること」を探してみましょう！



☐ ごみを
持ち帰る・拾う



☐ 生き物や
植物を大切にする



☐ 節水・水を
きれいに使う



☐ ラムサール条約
について調べる

感想

このリーフレットを読んで学んだことや
これからどのような取り組みをしていきたいか
忘れないように書き出してみましょう。

メモ